

学園だより 2011秋・冬 オープンキャンパス開催!



2011年度、吉備国際大学／吉備国際大学短期大学部／順正高等看護福祉専門学校（平成24年度名称変更予定）の3校では、今年度最終の秋・冬（参加申込制）オープンキャンパスを開催いたします。

大学、専門学校は『高梁キャンパス』において、短期大学部は『岡山駅前キャンパス』において、ご希望の学科・専攻の内容を1日で体験できる充実したプログラムにより開催します。特に、来春の開設予定となっている専門学校『介護福祉学科』は、地域社会の充実した福祉環境を担う介護福祉士の養成を目指しており、この厳しい就職難の時代においても安定した求人が寄せられる職種となっています。

高校生の方はもちろんですが、社会人の方にも門戸を開放した入試を実施し、各種の奨学金制度などを活用することで、経済的にも負担が少なく将来の就職を目指すことも出来ます。まずはオープンキャンパスにご参加いただき、学科の内容をご確認ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

秋・冬 オープンキャンパス（参加申込制）
 日時：11月19日（土）、12月3日（土）13:00～16:30
 内容：キャンパス見学、学部・学科紹介、入試相談、AO面接など。
 その他：備中高梁駅から無料送迎バスを随時運行
 ※短期大学部は『岡山駅前キャンパス』で開催（岡山市北区岩田町2-5）



※参加には事前の申し込みが必要。開催日の2日前までに電話・ファクス・メールのいずれかでお申し込み下さい。ファクス・メールでのお申し込みについては、ホームページ（http://kiui.jp）をご覧ください。

■問い合わせ・申し込み 入試広報室（☎0120-25-9944、FAX 0768、メール koho@kiui.ac.jp）

成羽病院通信

～その靴は足にやさしいですか？～

アドバイザー・看護師 丸橋理絵 日本糖尿病療養指導士

糖尿病をはじめとする生活習慣病の予防が国民にとって重要だと言われており、その中でも足のケア（フットケア）が注目されています。日頃身体を支えてくれ、移動するためにはなくてはならない「足」ですが、あまり注目されることがありません。未永く自分の足で元気に歩くためには、靴の選び方も重要になってきます。今回は靴の選び方・履き方についてお話します。

①実際に履いて、立って、歩いてみましょう。

- 足の大きさ・形・左右のサイズは一人ひとり違い、また、同じサイズでもメーカーやデザインで靴の大きさが異なります。
- 爪先が当たらないよう、つま先に1cm位の余裕があるといいですね。
- 足は長さ・幅・高さなどが立っている時と座っている時とでは違いがあります。又くるぶしが当たっていないか確かめて下さい。
- 購入時に5分位歩いてみる方が良いのですが、難しい場合は購入後15分程歩いてみて足に異常がないか確かめてから履いて下さい。



②夕方は足がむくみ、朝に比べて0.5cm位大きくなるため靴選びは夕方にしましょう。

③ひも靴は毎回ひもを結び直しましょう。

④靴擦れを起こすことがあるため、新しい靴や久しぶりに履く靴は長時間履かず、徐々に履き慣らしましょう。

市販の靴はどれも合わないという場合、中敷き（インソール）を使用したり、やや高額にはなりますがシューフィッター（正しく合った靴を販売する専門家）や義肢装具士に相談するのも良いと思います。

■問い合わせ 成羽病院事務局（☎423111）

地名をさぐる

七十九 寺山



南から、川面「寺山」を望む

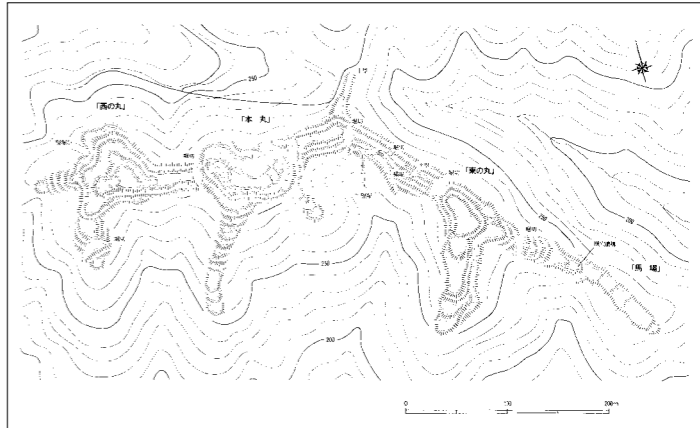
今回紹介する「寺山」は、吉備高原の山々が穿入蛇行して流れる高梁川の左岸にできた河成段丘の緩斜面を見降ろす山で、昔から川面の人々が「城山」と呼んで親しんできた山で、標高三一〇メートル、三つの尾根すじが北西から南東に延びて、川面地域の背後にそびえていて、裾野に広がる緩傾斜面には、久賀や押野、西屋、市場の集落が点在しています。

「寺山」は中世の山城があった山で、本年になって「寺山城跡」の山として市の文化財に指定されました。「寺山」のある「川面」は、中世になって地名が見られるようになり、吉田東伍・大日本地名辞書「富山房」。「大石郷」の頃には「今詳ならず、高梁及び川面など」とや曰へり」とあげ「今川面村」といふと説明し、加夜郡大石郷に属していたように書いています。しかし、寺山城に関する記録がなく、城主は明らかではありませんが、城主は難波六郎経俊と記録があつて（備中誌）、のち経清、経里、親経らが居城していたと伝えられ、応永年間（一三九四～一四二八）には、三好阿波守尊春が城主だった（上房郡誌）などと伝えられ、応永一五年（一四〇八）には、南側の山麓に招宝山吉祥寺を建立し、嘉吉元年（一四四一）に没したといわれ、松山城主秋庭氏に滅ぼされたといわれていました。

その後、元龜三年（一五七二）には、杉三郎兵衛尉重知が寺山城へ入城したこと、そして備中兵乱の時には毛利方の小早川隆景軍に攻められ、重知は松山城へ撤退してのち、小早川隆景が寺山城へ陣を移し、付近一帯の麦を刈り取って松山城の三村軍を兵糧攻めに重知は毛利軍へ投降したことが「備中兵乱記」に書かれています。

「寺山」にある城跡は、自然地形をうまく利用した中世の「山城」で、要害（険しくて攻めにくい）にした縄張り（曲輪）のようすがはっきりと分かる史跡なのです。現在の寺山に残る縄張りは、この「城」が使われなくなった最終段階の姿をとどめていて、「寺山」の城跡を歩くことで中世の城の防御の工夫を読み取ることもできるのです。高低差を利用して、山をけずり、墨線に意図的な屈曲をくわえ、尾根筋を遮断した堀（堀切り）を、堀や横堀にして人工の急斜面（切岸）をつくり、敵の突入を防ぐといった戦国の城の重要な機能が読みとれる「寺山」なのです。

縄張り曲輪は削平地として中央の屋根上（三二〇メートル）に主郭（本丸）を配置し、そのまわりには、階段状に腰曲輪や帯曲輪を南東・南西にのびる尾根上につくっています。そして主郭の東端には大きな「堀切り」も見られ、この付近が北からの虎口（入口）になっていたと考えられています。「主郭」の東に「東の郭」（東の丸）があり、その周りには、階段状に曲輪が配置されています。また主郭の西側には堀切りを隔てて「西の曲輪」（西の丸）が延びていて、周りにはやはり堀切りや腰曲輪が残っています。そのほか、「東の曲輪」（郭）の東には「堀切り」があつて「馬場」といわれる壇が南東に延びています。



寺山の縄張り図（市教委「寺山城跡」より）

寺山のおもとに三好尊春が建立したといわれる曹洞宗招宝山吉祥寺は、本尊は釈迦牟尼仏で応永十年（一四〇三）の開創と伝えられ、尊春の位牌が伝わっています。また「寺山」の付近には、古い歴史を語る「屋敷」の地名や「大門」「惣門」などの地名や大元八幡宮が残っていて興味を尽きない地域なのです。

「寺山」（城山）の地名は、「寺のある山」として川面の人々は親しみをもち呼んでいたのでしょうか。この山はまさに「城山」・「城郭のある山」だったので。

（文・松前俊洋さん）